

科目名	単位数	実務経験を活かした教育の取組	薬学	生命
分子神経科学	1	国立および海外の研究機関・大学での研究経験がある教員により講義	○	○
医薬品情報学	1	薬剤師業務に携わった経験を有する教員および現在携わっている教員が講義を行う。	○	○
医療倫理実習I	1	担当教員(2名)は、医師として30年以上の診療経験を有し、現在も日本神経学会認定の難病医療センターとして、難病障害の診療に従事している。これらの実務経験を踏まえ、薬理学の基礎となる病理・病態生理の理解を重視しながら実習を実施している。	○	○
医療経済学	1	本授業は、薬局・病院での薬剤師業務の実務経験者や薬局経営者が講師を担当する。その経験を活かし、医療・介護保険制度、薬価制度、医療経済評価、地域包括ケアシステムなどについて基本および発展的事項を講述する。	○	○
医療薬学Ⅰ	2	大学附属病院の医師として診療に携わった経験を持つ教員が、実務に関連した内容の授業を行う(5回)。	○	
医療薬学Ⅱ	2	主担当教員は医師としての診療の経験があり、病態生理および医療現場の理解を講義の重点に置いている。	○	
医療薬学Ⅲ	2	主担当教員は薬剤師や医師としての経験があり、より実践的な講義を重点に置いている。	○	
医療薬学Ⅳ	1	薬剤師業務に携わった経験を有する教員および現在携わっている教員が講義を行う。	○	
化学系実習II	1	製薬企業の研究所に3年間勤務した教員も、創薬研究に携わった経験をもとに指導にあたる。	○	○
漢方薬物治療学	2	第13回目を、本学附属病院漢方医学センターで実際に漢方診療を行っている医師の特別講義としている。	○	○
基礎薬学演習	2	幅広い分野の教員が参加し、その中には薬剤師経験のある臨床薬理や医師として臨床診療経験がある教員が複数名含まれる。	○	
機能形態学II	2	一部講義は、臨床経験が豊富な医師・薬剤師の教員が行う。	○	○
コミュニティ・ヘルスクエア発展	2	本授業は、薬局薬剤師等と大学実務家教員が連携して、受講者が薬剤師として地域医療に真に貢献できるよう講義・演習および地域活動を実施する。	○	
コミュニティ・ヘルスクエア実践	2	本授業は、健康地区の病院・薬局の医療関係者等と連携して、臨床研究経験のある実務家教員が担当する。	○	
公衆衛生Ⅱ	1	衛生・環境関係の公的研究所、学校薬剤師、行政に従事している外部講師による事務内容を中心とした講義を含む	○	○
臨床薬学実習I(事前学習)	4	本授業の講師は、現在臨床現場や行政で活躍する専門家、実務家教員が主に担当する。	○	
臨床薬学実習II(病院実習)	10	本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。	○	
臨床薬学実習III(病院実習)	10	本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。	○	
臨床薬学実習IV(保険薬局実習)	10	本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。	○	
臨床薬学実習V(保険薬局実習)	10	本実習は、実習施設で、大学教員と連携しながら認定実務実習指導薬剤師が指導・評価を行う。	○	
臨床薬学Ⅱ	1	主担当教員は医師としての診療の経験があり、病態生理および医療現場の理解を講義の重点に置いている。	○	○
先端薬科学	2	担当教員の中には、企業の研究所、病院などで勤務経験があるものが複数いる。	○	○
創薬科学・知的財産活用論	1	・弁理士が、特許制度の基本的な知識と手法について講義する。 ・製薬企業の研究部門の研究者が、企業における創薬科学について講義する。 ・企業の知財部門で勤務する知的財産専門家が、特許を用いた研究成果の保護・活用の方策について講義する。 ・大学の産学連携推進課で勤務経験のある教員が、バイオ分野の知的財産権の特色、起業活動およびベンチャービジネス論について講義する。	○	○
地域医療学基礎	2	本授業は、臨床現場や行政で活躍する専門家および実務家教員が主に担当する。	○	
地域医療学応用	1	本授業は、病院職員、地域の行政職員、ボランティア等と大学実務家教員が連携して、受講者が薬剤師として地域医療に真に貢献できるよう大学での講義・演習、病院見学・演習および地域での体験型演習を実施する。	○	
薬理学Ⅱ	2	主担当教員は医師としての診療の経験が30年以上あり、現在でも難病学会認定の専門医として、難病障害の診療を行っている。その経験から、薬理学の基礎となる病理・病態生理の講義にも重点を置いている。	○	○
薬理学Ⅳ	1	主担当教員は医師としての診療の経験が30年以上あり、現在でも難病学会認定の専門医として、難病障害の診療を行っている。その経験から、薬理学の基礎となる病理・病態生理の講義にも重点を置いている。	○	○
薬事関連法・制度	2	行政及び調剤実務の立場から薬事関連業務に携わった講師・教員が、薬事関連法規・制度を講義する。	○	○
薬学英語III	1	留学や国際学会など海外での経験を講義に取り入れる。	○	○
薬局管理学	1	本授業は、薬剤師としての実務経験のある教員が担当する。	○	
薬学概論I	1	主担当教員の2名は医師として診療経験が30年以上あり、現在でも難病学会認定の指導医として、難病障害の診療を行っている。その経験から、薬学の基礎となる薬理学の入門講義を行っている。また、分担する河野は、薬剤師としての経験を持つ実務家教員である。	○	○
薬学概論II	1	本講義で薬剤師、倫理関連の授業を担当する講師は、臨床現場で実際に従事している薬剤師、薬剤師臨床経験のある教員が現在の医療現場の状況を踏まえ講義する。	○	○
有機反応化学I	2	製薬企業の研究所に3年間勤務した教員が、自らの経験をもとに企業での創薬研究およびそのために必要とされる大学での学習態度について話をする。	○	○
有機反応化学III	2	製薬企業の研究所に3年間勤務した教員が、有機化学の知識をもとに医薬品の性質を説明する術について解説する。	○	○

【専門教育科目】

全学共通科目	0	0
学部専攻共通科目	29	29
専門科目	41	0
単位数合計	70	29

【教養教育科目】

全学共通科目	20	20
学部専攻共通科目	29	27
専門科目	0	2
単位数合計	49	49

【合計】

全学共通科目	20	20
学部専攻共通科目	58	56
専門科目	41	2
単位数合計	119	78